

平成21年3月1日
(2009)
第94号
毎月発行
編集
公民館だより編集室
発行
西東京市公民館

西東京市 公民館だより

田無公民館
南町5-6-11
TEL 461-1170

芝久保公民館
芝久保町5-4-48
TEL 461-9825

谷戸公民館
谷戸町1-17-2
TEL 421-3855

保谷公民館
柳沢1-15-1
TEL 464-8211

ひばりが丘公民館
ひばりが丘2-3-4
TEL 424-3011

保谷駅前公民館
東町3-14-30
TEL 421-1125



ボランティアが支える 生き残った近代建築 東大農場 農場博物館

西東京市のオアシスと呼ばれる東大農場。東大農場の新たな魅力についてご紹介します。
牛舎と安田講堂
東大農場（緑町一丁目）の西の隅に、農場博物館があります。かつて農場では乳牛が飼育されていました。搾乳して「東大牛乳」として販売されていたこともあります。乳牛がいなくな

なったのは数年前のことです。不要になった牛舎は、いったんは取り壊しも検討されていましたが、米川智司准教授の指導のもと「東大農場のみどりを残す市民の会」も協力して調査したところ、近代建築物として貴重なものと判明したのです。農場の建築群は東京帝国大学 営繕課（当時）が担当。その責

任者が、のちに総長をつとめた内田祥三氏でした。氏は「内田ゴシック」と呼ばれるデザインパターンの建築を多く手がけ、その代表作が東大のシンボル安田講堂です。
農と緑を学ぶ場
牛舎は博物館として生まれ変わりました。平成19年11月に開館、さらに昨年7月、リニューアルオープンしました。

建物内部を見上げると、柱が複雑に組まれています。陳列されているのは鎌、唐箕、鍬からトラクターに至るまでの農機具類。また、明治初頭の農学書「農事図解」の一部も見ることができ、東大の農学がドイツ系のものであったことなどがわかります。

一隅には農場内の映像を見られるスペースもあり、農業の近代化過程や地域における緑地の意義について考えることができます。
「耕す」cultivateと文化「culture」は同じ語源なのです。ボランティアの前田さん。農場博物館では30数人の東大農場ボランティアが登録しています。



▲熱心に説明する前田さん

「みどりを残す市民の会」で活動してきた人たちははじめとして、講習を受け、来館者に対応しています。陳列品や農場に

「資格は持っていませんけれど、学芸員のような役割もしているのですよ。東大農場を残して何らかのことをしたい」と前田さんは話します。

この日は自主勉強会の日で、新津きよみ著の『ホーム・パーティー』という作品に取り組んでいました。テキストを聞き、相談しあって、それぞれが朗読するパートを振り分けました。聞き取りやすい丁寧な朗読が続き、登場人物の台詞にさしかかると、そのときの人物の感情がいきいきと表現され、作品世界

「長谷先生がとても魅力的」「自分の中には、幼いころから表現をしたいという思いがあったけれど、朗読は演劇のように体を使わなくても表現できる。人間が本来もっているいい部分や自分が実際に経験したことがない世界を想像して表現できるのは、とても楽しい」と言います。作品や台詞を分析しあうこともあります。「自主勉強会では皆で作って活動している感覚もあって。その感覚をとても大事に思っているし、それが何よりの財産です。」「朗読」を通して地域の仲間に出会い、せっかくなサークルを発足することができたので、未長く活動を続けていきたい。そして、ぜひこのメンバーで舞台ができれば・・・と、今後の夢を語ってくれました。